

平成10年産ひとめぼれにおける乳白粒発生要因の解明

福島県農業試験場種芸部・平成10年度夏作試験成績概要

1 部門名 水稻－水稻－品質・食味－気象解析 01-01-27310000

2 要 旨

平成10年産の県内作況指数は県全体で94の「不良」であった。また、ひとめぼれでは乳白粒が発生し、玄米品質が劣った。場内の作柄解析試験における乳白粒の発生から要因を解析すると以下のとおりである。

(1) 玄米の粒厚別の乳白粒発生率は、粒厚が薄くなるにつれて増加した。

移植時期別では、5月15日移植が10.7%と最も多く、次いで5月1日移植が3.4%、6月4日移植が1.4%であった。

(2) 収穫時期別の乳白粒発生程度は、出穂後35日では少なく、同40日、同45日と登熟が進むにつれて増加した。

(3) 福島県の平成6年産ひとめぼれにおいては、登熟期の高温および籾数過剰により乳白粒の発生が多くなる傾向が報告されている。平成10年度は、移植時期別では5月15日移植での発生が多かった。これは、出穂後21日～30日(8月28日～9月6日)が他の移植時期より最高気温が低く日較差が小さく、少照であったためと考えられる。また、最高分げつ期以降の少照と急激な葉色の低下により、穂揃い期の葉身および茎葉乾物重が最も少なく、炭水化物蓄積能力が最も低下していたと考えられる。さらに、登熟後期の気温が高かったことによる澱粉転流の競合も関与していると考えられる。